

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2004-536476 (P2004-536476A)  
 【公表日】平成 16 年 12 月 2 日 (2004.12.2)  
 【年通号数】公開・登録公報 2004-047  
 【出願番号】特願 2002-548998 (P2002-548998)  
 【国際特許分類】

**H 0 4 B      7/26      (2006.01)**

【F I】

H 0 4 B      7/26      K

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 17 年 7 月 29 日 (2005.7.29)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 1 0  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 1 0】

図 1 は複数のセル 1 2、1 4、1 6、1 8、2 0、2 2、2 4 を有する無線通信システム 1 0 を図解する。セル 1 2、1 4、1 6、1 8、2 0、2 2、2 4 は無線エアーインターフェースを介して B S C 2 6 と通信する。セル 1 2、1 4、1 6、1 8、2 0、2 2、2 4 の各々は、地理的および / または送信隣接基地局内のセルから構成される対応する隣接基地局セットを有する。例えば、セル 1 8 はセル 1 2、1 4、1 6、2 0、2 2、2 4 を含む隣接基地局セットを有する。以下 I S - 9 5 規格と呼ぶ「デュアルモード広域スペクトラム拡散セルラシステムのための T I A / E I A / I S - 9 5 移動局 - 基地局互換規格」または、以下「c d m a 2 0 0 0 規格」と呼ぶ「c d m a 2 0 0 0 スペクトラム拡散システムのための「T I A / E I A / I S - 2 0 0 0 規格」により仕様が定められる符号分割多元接続 (C D M A) システムのようなスペクトラム拡散送信システムにおいて、スペクトラム拡散信号は同じチャネル帯域幅を占有し、各信号は固有の区別可能な擬似ランダム雑音 (P N) 系列を有する。C D M A の動作は、この特許出願の譲受人に譲渡され、参照することにより明白に組み込まれる、米国特許第 4, 9 0 1、3 0 7 (発明の名称: 「衛星または地上リピータを用いたスペクトラム拡散多元接続通信システム」) および米国特許第 5, 1 0 3、4 5 9 (発明の名称: 「C D M A 携帯電話システムにおいて波形を発生するためのシステムおよび方法」) に記載されている。このようにして、複数のユーザが同じチャネル帯域幅を介して同時メッセージを送信する。

【誤訳訂正 2】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 1 1  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 1 1】

図 2 は、M S 3 8 と通信する、B S 1 のラベルが付された基地局 3 2 を含む、図 1 のシステム 1 0 の一部を図解する。B S 1 は図 1 のセル 1 8 内にある。それぞれ B S 2、および B S 3 のラベルが付された 2 つの他の基地局 3 4、3 6 がそれぞれセル 1 6、2 4 内にある。無線エアーインターフェースは B S 1    3 2 から M S 3 8 への通信のための順方向リンク (F L) のための媒体を供給し、M S 3 8 から B S 1    3 2 への逆方向リンク (R L) のための媒体を供給する。留意すべきは M S 3 8 は、B S 1    3 2 への信号品質およ

びBS1 32からの信号品質が悪化するようシステム10内を移動するかもしれないという点である。呼を開始するために、MS38はアクセスチャネル上に送信を送信する。BS1 32、BS2 34およびBS3 36はチャネル割当てメッセージをページングチャネル上に送信する。チャネル割当ては各基地局に対してウォルシュコードインデックスを識別する。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0048

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0048】

時刻t1においてトリガーが識別されると、BSC26は隣接基地局BS2 34からデフォルトチャネル送信を開始する。時刻t2に対してBS2 34はMS38に向けてデフォルトチャネル上に送信を開始する。この送信はBS1 32からの同一の送信と並行している。トリガーが発生すると、MS38は所定の待ち時間期間、送信器をディスエーブルにする。時刻t3において、待ち期間が終了し、MS38は時間期間Yの間プリアンブルを送信する。同時に、MS38のASはAS(0)からAS(1)に変更される。AS(1)において識別される基地局は、最後のPSMMにおいて引用されたすべての基地局である。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0061

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0061】

呼の復旧が生じると、MS38は送信器をディスエーブルにする可能性がある。送信器が再びイネーブルにされると、ハンドオフ完了信号が復旧調節装置316に供給される。ハンドオフ完了信号は復旧調節装置316に所定のPC信号を発生するように命令する。このようにして発生されたPC信号は、上で述べた初期RL送信電力発生のためのいずれかの方式を実現してもよいし、代替りの方法を実現してもよい。ハンドオフ完了信号はマルチプレクサ312を制御するためにも供給される。呼の復旧に続いて、復旧調節装置316により発生されるPC信号は電力調節装置310に送られる。並行して閉ループ電力制御が開始する。閉ループ電力制御が完全に再開されると、ハンドオフ完了信号が無効状態にされ、マルチプレクサ312は電力制御装置314により発生されたPC信号を選択し、電力調節装置310に供給する。復旧調節装置316の動作はソフトウェア命令で動作するマイクロプロセッサ320により実行してもよいし、または効率的な信頼性のある動作のためにハードウェアで実現してもよい。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】図9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図9】

図9は一実施の形態に従って、図1のシステムの呼の再生動作をタイミング図のフォームで図解する。